

的な内容を示していただきました。

〔答弁〕本事業のスケジュールについて、県では実施要綱を策定し、自治体の参加に対する意向確認を行うとともに、協賛企業の募集を開始したところである。

また、サービス開始時期は6月を想定しているとのことであり、この事業の提案市として、積極的に取り組むことを表明したものである。

一方、市内の店舗、事業所などの協賛・参画に係る具体的な取り組みについては、商工会議所、商店会、工場懇話会、あるいは個別店舗等に対して積極的な働きかけを行っていると考えている。

4万人都市復活

大作戦について

水落 孝子

〔質疑〕4万人都市復活大作戦について、初年度の取り組みに対する検証結果はどうか。

また、人口増の主役である子育て支援策充実の一方で平成20年度から保育園保育料の

20%値上げ、市税滞納者へのサービス制限実施により、赤ちゃん誕生祝い金を受けられない人が出てきている。

政策の整合性に疑問を感じており、見解を伺う。

〔答弁〕平成19年度は60の事業を展開したところであるが、年度内において市民のニーズを考慮し、新年度は67の事業を展開することから、拡充または見直しによつて進展するものと考えている。

また、子育て支援の拡充は給付であり、幼稚園の保育料等は公平な負担であると思っているので、整合性は図られていると考える。

行財政改革について

誠心会 山田 裕一

〔質問〕三位一体改革や地方分権による社会経済情勢の変化により財政環境は極めて厳しい状況の中、今後の行財政改革が極めて重要と感じる。

(1)本市の行財政改革の計画はどういったものか。

また健全財政を堅持するために何が必要と考えているのか。

(2)事務事業評価の推進委員会の構成を伺いたい。

〔答弁〕財政改革については住民との協働により、地域にふさわしい公共サービスを行うことを基本理念として、厳しい財政や地域経済に対応した持続可能な行財政運営を図ることを基本方針としている。

健全財政を堅持するために、徹底した歳出の抑制により、行財政改革をさらに推進していくほかないものと考えている。

事務事業評価の推進委員会の構成は委員長が市長、副委員長は副市長、委員が教育長、会計管理者、4部長他12名である。

財務効率化を図るもの、また職員活性化、事業成果、顧客満足度の視点から指標を設定している。

高齢者支援と地域医療体制の指針について

吉田 貞子

〔質問〕当市の人口の社会減少についてどのように考えるか。

〔「いきいき長生き健康寿命の支援」の方策と医療との連携について見解を伺う。〕

市民は刈田病院の行方を不安に思っているが同病院を核とする地域医療体制の指針を伺う。

〔答弁〕人口社会減少、工場閉鎖などの影響があると思うが、母子手帳の交付件数は昨年と比較して減少していないことには明るい光がさしていると考えている。

〔「いきいき長生き健康寿命の支援」については住民健診をしっかりと行う。高齢者の健診を行うことで、早目に医療に手を打てれば、高額医療につながらない。〕

刈田病院を核とする地域医療を守ることは大切である。市民も病院を守るという気概

を持ちながら地域医療を考えて行かなければならないと考える。

高齢者支援について

一心会 安斎 多実男

〔質問〕支援の柱「いきいき長生き健康寿命の支援」を掲げ、福祉の郷構想に基づいた展開をしている本市において、自立の維持や生きがいの保持へと視点が拡大している社会への対策について、どのように考えているか。

〔答弁〕平成18年3月に、白石市高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画を策定した。その計画の理念は、「ともに支え合う心安らかな日々を送る生活の豊かさの実現」である。この中で、種々の高齢者福祉施策、高齢者の健康維持・向上のための施策、生きがいづくりや社会参加の施策、地域での支え合いを支援する施策などを示しており、重点施策目標の一つである「健康寿命の延伸」を目指し、質の高い事業を充実したい。